

銚子・九十九里地域水産業振興方針

(令和4年度～令和7年度)

令和4年3月

千葉県銚子水産事務所

千葉県銚子漁港事務所

目 次

I	銚子・九十九里地域水産業振興方針について	1
1	千葉県農林水産業振興計画 水産部門戦略	
	●海面漁業	
	（1）目指す姿	
	（2）現状と課題	
	（3）施策推進のポイント	
	●内水面漁業	
	（1）目指す姿	
	（2）現状と課題	
2	銚子・九十九里地域水産業の現状	7
	①水産業の概要	
	②水産業の構造	
II	主要施策による主な取組	11

I 銚子・九十九里地域水産業振興方針について

本方針は、県総合計画を実現するための具体的な取組を示す「千葉県農林水産業振興計画」を踏まえ、地域の特徴に応じた施策の方向性を示すものです。

千葉県農林水産業振興計画で示している目指す姿、現状と課題、施策推進のポイントは次のとおりです。

1 千葉県農林水産業振興計画 水産部門戦略

●海面漁業

(1) 目指す姿

- 新漁業法に基づき、漁獲報告システムで得られたデータを活用した科学的評価による漁獲可能量を基本とした管理と漁業者の自主的な管理の組合せにより適切な資源管理が行われている。また、漁業者はICT等の新技術を活用し、生産性の高い漁業が実現している。
- 水産資源の適切な管理と水産業の成長産業化の両立により、漁業者の所得の向上と年齢バランスのとれた漁業就業構造が確立した「次世代の千葉県水産業」が展開されている。
- 豊かな自然環境、四季折々の新鮮な水産物やこれを生かした水産加工製品、海の伝統文化、海洋レクリエーションといった本県の有する様々な地域資源が活用され、漁村地域の活力が創出されている。

(2) 現状と課題

<水産資源の持続的利用>

- 水産資源が減少する中、漁業生産を将来にわたり持続的に行っていくためには、科学的な根拠に基づく資源評価と適切な資源管理が重要です。そのため漁獲情報等の収集と資源評価の体制を整備・拡大し、漁業者の理解を得た上で数量管理による資源管理を進めるとともに秩序ある漁場利用を図る必要があります。
- 沿岸の海水温上昇、東京湾の栄養塩類不足及び貧酸素水塊などによる漁業生産への影響や、岩礁域でのアラメ等大型藻類群落（藻場）の急速な消失（磯焼け）など、漁場環境の変化に適応した対策が求められています。

<水産業の成長産業化>

- 漁業の分野では、従来の経験と勘による操業からの転換を図り、その生産性を向上させる新技術の開発等が全国的に進められつつあります。新技術を活用した水産業のスマート化を加速させるためには、漁業者等のニーズと民間企業等の新技術のマッチングを図るとともに、新技術の有効性を現場にわかりやすく伝えることができる漁業者等の人材を育成することが重要となります。
- 国内では、高度な衛生管理に対応した荷さばき所の整備が進んでいます。そのため、流通拠点漁港においては輸出も見据えた施設の近代化により、品質・衛生管理体制を強化し、産地間競争に打ち勝つ必要があります。
- 水産物の消費量が減少傾向にある一因として、消費者の食の志向の変化が考えられます。これからは、従来の生産者側の視点でより良い商品を提供するプロダクトアウトの発想に加えて、消費者ニーズを捉えた商品を提供するマーケットインの発想による販売力の強化を図る必要があります。

<漁業・漁村の活性化を支える取組>

- 新規漁業就業者は減少傾向にあります。生活や仕事に対する価値観の多様化により、漁家子弟が必ずしも漁業に就業するとは限らなくなっていることもあり、都市部出身者など潜在的な就業希望者の掘り起こしが必要です。
- 担い手不足に悩む地域や漁業経営体がしっかりと就業希望者を受け止め、操業形態に応じたきめ細かな支援により、漁村への定着へと繋げていくことが重要です。
- 水産業・漁村が有している環境・生態系の保全や、歴史・漁村文化の伝承などの多面的機能の恩恵は、漁業者や漁村だけでなく、広く県民にも及びます。漁業者の高齢化や漁村人口の減少等により、漁村の活力が衰退していることから、多面的機能の発揮に資する取組への支援が求められています。
- 国は洋上風力発電事業の導入拡大を推進していくこととしており、漁業との共存が重要となります。

(3) 施策推進のポイント

1 水産資源の持続的な利用

- 資源評価の高度化や数量管理に必要な基礎データを収集する「漁獲報告システム」を整備します。
- 水産資源の生態などの調査を充実させるとともに、漁船漁業の操業支援のための「漁海況予測システム」の高度化など、水産総合研究センター及び水産情報通信センターの機能強化を図ります。

2 水産業の成長産業化（水産新技術[スマート水産業]を活用）

- 資源評価の高度化、漁業・養殖業の生産性向上及び担い手の確保・育成に新技術を活用します。また、新技術情報の提供や成功事例の提示により、スマート水産業を推進する若手漁業者などのキーパーソンを育成しつつ、民間企業等と現場の橋渡し役を県が担うことで、民間企業等と漁業者との活動を推進し、水産現場への新技術の実装を加速化します。
- 「浜の活力再生プラン」や「浜の活力再生広域プラン」の着実な実施や、水産物の付加価値を高める「水産バリューチェーン」の構築により、地域の漁業所得の向上を図ります。

3 漁業・漁村の活性化を支える取組（地域資源を活用）

- 都市部出身者などを含め、次世代を担う新規漁業就業者の育成モデルを構築します。
- 魚類などの生育の場である藻場の食害生物の駆除や母藻の設置、干潟の造成などを推進するとともに、漁場の保全活動に取り組む漁業者グループを支援し、漁村の多面的機能の発揮を推進します。
- 水産業を中心とした経済活動や観光、海洋レクリエーション、加工製品のほか、海に関わる食文化・芸術・生活習俗などの地域資源を活用することで、地域に都市住民や県民の来訪を増やし、雇用の創出や漁家所得の向上などを通じた漁村の活性化を図っていきます。

●内水面漁業

(1) 目指す姿

- 漁業者によるアユやウナギなど有用魚種の種苗放流や産卵床の設置、カワウなどによる食害の防除などが効果的に実施され、水産資源の維持・増大が図られることで、内水面漁業の生産量が増加するとともに、多くの釣り人が遊漁を楽しんでいる。
- 漁業者グループによる環境・生態系保全活動等の取組が推進されることにより、内水面が有する多面的機能が発揮され、河川、湖沼の環境保全や都市住民との交流促進による賑わいの創出が進んでいる。
- ホンモロコやアオノリなど地域の特色のある養殖品種が安定的に生産され、特産品として根強いファンに応援されている。

(2) 現状と課題

- 本県は北に日本一の流域面積を誇る利根川が流れ、西に江戸川、県央には丘陵地域を水源とする多くの河川や湖沼を有しています。それらの水域では、古くからアユ、コイ、フナ、ウナギやシジミを対象とした漁業や、アオノリ養殖など特色ある漁業が営まれ、これら河川湖沼の恵みを用いた「川魚料理」は、多くの人々に親しまれており、伝統的な食文化の一つともなっています。
- また、これら河川湖沼では、漁業者による魚の種苗放流や河川清掃などの環境保全活動が行われ、漁場としての機能だけでなく、釣り場や人々が自然と親しむ場ともなっており、都市住民との交流が行われるなど、地域活性化の一助となっています。
- 一方で、近年、内水面の漁業生産量は、漁場環境の変化や、外来魚やカワウなど害敵生物被害により減少しており、漁業協同組合においては、遊漁料収入や組合員の減少も進む中、組織の脆弱化が懸念されています。
さらに、過去の原発事故の影響により、利根川や手賀沼の一部の魚種では、未だに出荷制限が継続し、内水面漁業の振興の妨げになっています。
- これらの現状を踏まえ、水産資源の回復と地域づくりの推進を担う漁業協同組合の経営基盤強化、内水面の有する多面的機能を最大限に発揮していくことが必要です。

【数値目標】

	現 状	目 標 (令和7年度)
県内漁港水揚金額	476 億円 (令和元年)	580 億円
新規漁業就業者数	30 人/年 (令和2年度)	35 人/年 (令和4年～7 年度の平均)
漁獲報告システムによりICTを活用して 水揚情報を送信する漁業協同組合の割合	—	80%以上
漁業者等が取り組む干潟や藻場等の水産 多面的機能発揮対策事業協定面積	5,765ha (令和3年度)	6,000ha
海岸保全基本計画の改定により 防護高さを見直す漁港漁村地区	—	全18地区で計画 の見直しの完了
県が行う資源評価対象魚種数	16 魚種 (令和3年度)	26 魚種
ノリ養殖業におけるICTブイとスマート フォンを活用し水温等の見える化を実践する地 区数	—	6 地区
浜の活力再生プランの策定地区数	10 地区 (令和3年度)	13 地区
水産バリューチェーンの取組計画数	—	10 件
人工産卵床設置漁業協同組合数	3 組合 (令和3年度)	15 組合
遊漁承認証の販売枚数	5.7 万枚 (令和2年度)	増加を目指す
ホンモロコの生産量	0.5 トン (平成28年～ 令和2年度の平均)	1.0 トン

2 銚子・九十九里地域水産業の現状

①水産業の概要

ア 銚子地区

銚子市の沖合は、黒潮と親潮が接する日本有数の好漁場のため、沖合ではイワシ、サバ等を対象としたまき網漁業、多種多彩な魚介類を水揚げする沖合底びき網漁業、道東沖から銚子沖にかけて操業するサンマ棒受網漁業等の大型船による漁業から、沿岸では小型漁船による、はえ縄漁業、船びき網漁業、一本釣り漁業、小型底びき網漁業、刺し網漁業等、多種多様な漁業が盛んに行われており200種類を超える魚介類が水揚げされ、水産物の流通の拠点として、県内をはじめ全国各地に水産物を供給しています。

また、後背地には、水産物流通・加工拠点が形成されており、冷凍品、塩蔵品、塩干品等の多種多様な水産加工業が営まれ、銚子漁港の水揚げ処理能力を支えています。

一方、当地区の内水面漁業としては、香取市地先からの利根川下流域において、共同漁業権に基づくウナギ、フナ等の採捕が行われ、養殖用ウナギ種苗（シラスウナギ）の全国有数の産地でもあり、さらに、遊漁者等によるレジャー活動、河川管理者による利水等、様々な用途で利用されています。

イ 海匝・九十九里地区

九十九里浜は近代まき網発祥の地と言われ、古くからイワシ類を対象とした漁業が盛んであり、水産加工業とも密接に繋がり、地域の基幹産業として重要な位置を占めています。

また、九十九里の砂浜域ではチョウセンハマグリ等を対象として貝桁網漁業が行われており、沿岸域では、はえ縄漁業、固定式刺し網漁業、船びき網漁業、ばいかご漁業、一本釣り漁業、小型底びき網漁業など多種多様な漁業が行われています。

さらに、内水面漁業は、栗山川では共同漁業権に基づくウナギなどの採捕が行われており、九十九里浜に流入する河川や河口域においてシラスウナギの採捕が行われています。

一方で、漁業以外に海水浴やサーフィン、遊漁等、海辺での体験型の観光をはじめとする多彩な観光資源を有し、内水面においても遊漁以外に、河川管理者による利水・環境保全等、様々な人々によって利用されています。

②水産業の構造

ア 生産量・生産金額

銚子漁港の水揚金額は、200億円から300億円の範囲で推移し、水揚量は10年連続日本一（令和2年）を誇っており（図1）、千葉県全体の約76%を占めています（平成30年度）。令和2年の水揚金額のうち漁業種類別では8割をまき網漁業が占め、魚種別ではサバ、マイワシ等の多獲性魚が6割以上を占めています（図3）。一方で、小型船によりキンメダイ等の高級魚も水揚げされています。また、銚子漁港の水揚量は外来船の割合が非常に高く、8割以上を占めています（図2）。

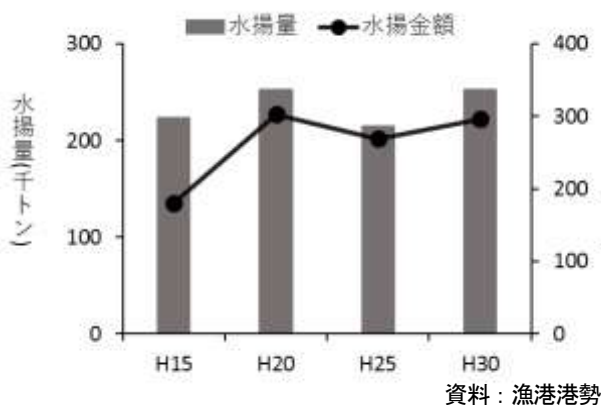


図1 銚子漁港の水揚量・水揚金額

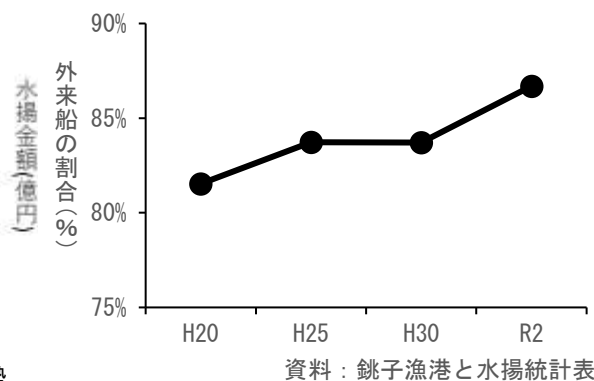


図2 外来船の割合

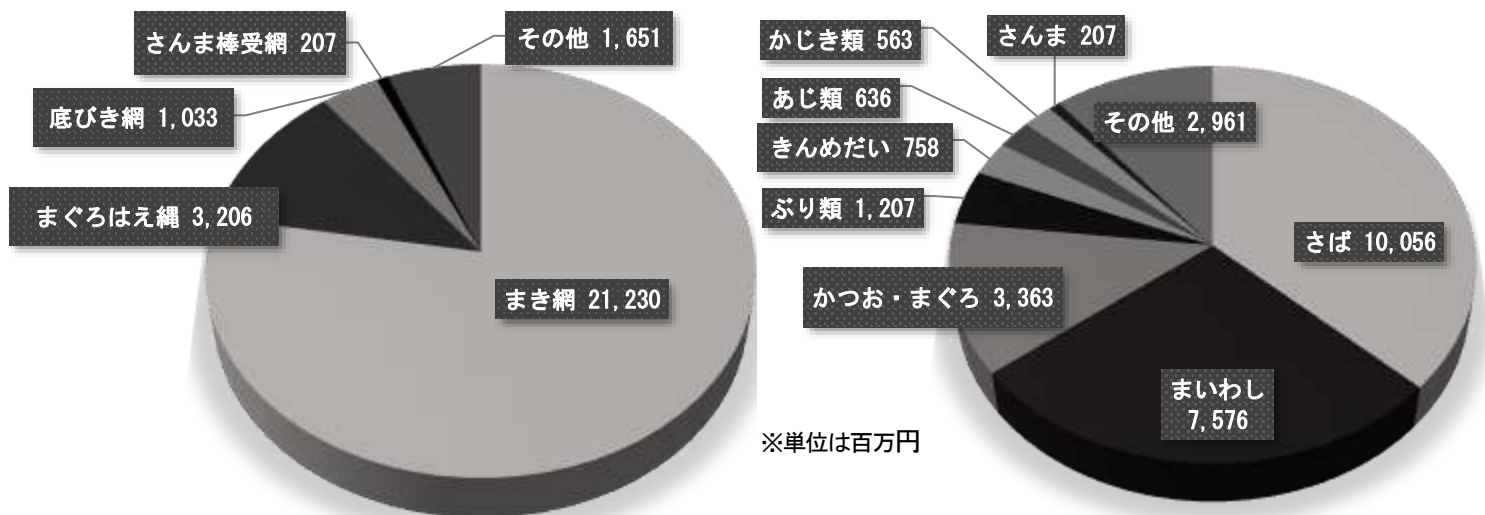


図3 漁業種類別・魚種別水揚金額（令和2年）

海匝・九十九里地区の水揚げは、主に飯岡漁港及び片貝漁港で行われており、漁港水揚量は30,854トン（平成30年）で（図4）、千葉県全体の約9%を占めています。水揚量のうち多くを占めるのは、まき網漁業によるイワシ類と貝桁網漁業によるチョウセンハマグリです（図5）。飯岡漁港、片貝漁港とも地方卸売市場を有し、流通拠点漁港として地域水産物の水揚げ、集約が行われており、両港とも10,000トン以上の水揚量で県の平均水揚量、水揚金額を上回っており、漁港の規模としては相対的に大きいと言えます。

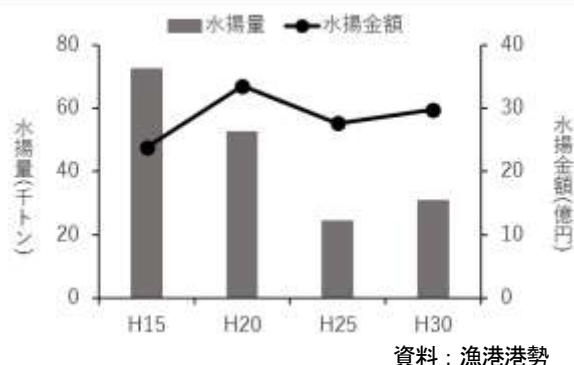


図4 海匝・九十九里地区水揚量・水揚金額

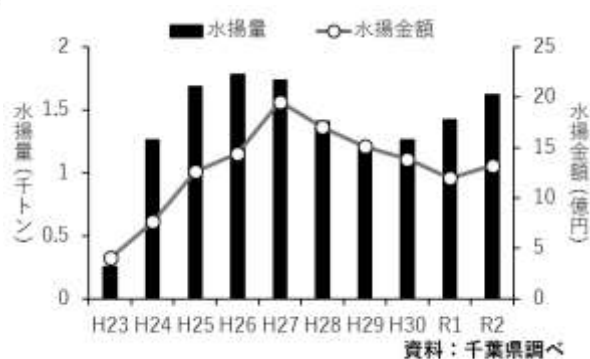


図5 チョウセンハマグリ水揚量・水揚金額

イ 漁業経営体数・漁船数

銚子地区の海面漁業経営体数は漁業者の高齢化や後継者不足により減少傾向が続いており、平成30年には106経営体と、10年前に比べ24%減少しています（図6）。

海匝・九十九里地区の海面漁業経営体数も同様に、平成30年は90経営体となり、10年前と比べ14%減少しています（図7）。

また、令和2年度末時点の銚子地区の漁船隻数は約230隻で、10年前に比べ3割、5年前に比べ1割の減少で推移しています。なお、海匝・九十九里地区の令和2年度末時点の漁船隻数は約250隻で横ばいで推移しています。

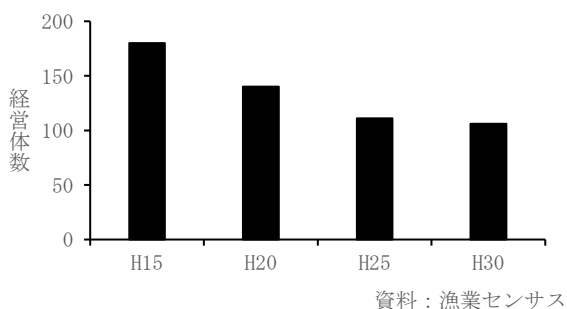


図6 銚子地区漁業経営体数

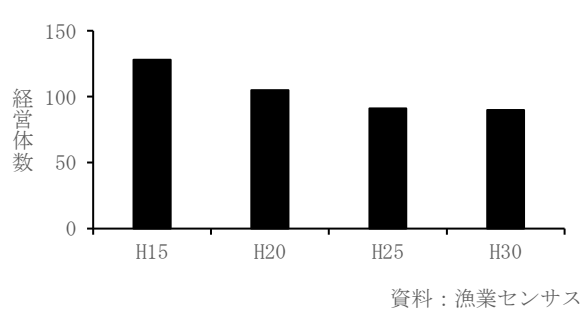


図7 海匝・九十九里地区漁業経営体数

ウ 生産基盤の状況

銚子市内には銚子漁港(特定第3種)、外川漁港(第2種)の2港がありますが(図8、表)、外川漁港に水揚げされる漁獲物のほとんどが、銚子漁港の地方卸売市場に陸送されています。

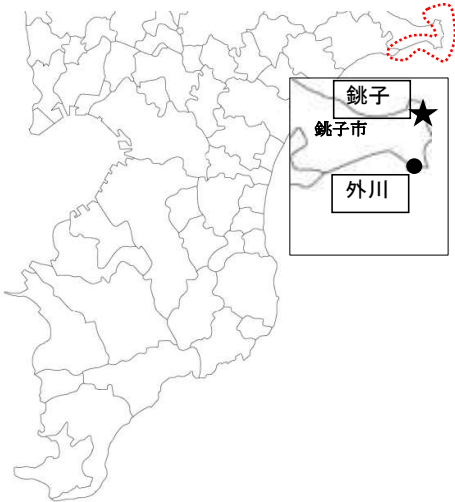


図8 銚子地域の漁港位置

表 銚子地域の漁港一覧

漁港名	位置	種別	管理者	漁業協同組合	拠点漁港			
					流通拠点	生産拠点	流通輸出拠点	防災拠点
ちょうし 銚子	銚子市	特3	千葉県	銚子市	○		○	○
とがわ 外川	銚子市	2種	千葉県	銚子市		○		

海匝・九十九里地区は、旭市から一宮町の4市4町1村から構成され、地区内には飯岡漁港(第1種)、栗山川漁港(第1種)及び片貝漁港(第4種)の3港があります(図9、表)。



図9 九十九里地域の漁港位置

表 九十九里地域の漁港一覧

漁港名	位置	種別	管理者	漁業協同組合	拠点漁港			
					流通拠点	生産拠点	流通輸出拠点	防災拠点
いのおか 飯岡	旭市	1種	千葉県	海匝	○			
くりやまがわ 栗山川	横芝光町	1種	千葉県	九十九里				
かたかい 片貝	九十九里町	4種	千葉県	九十九里	○			

Ⅱ 主要施策による主な取組

1 水産資源の持続的な利用

(1) 資源評価の高度化と適切な資源管理措置の実施

【各地域共通】

- ・新漁業法に基づく漁獲可能量を基本とした資源管理を実施する上で重要な科学的な資源評価を的確に行うため、国と連携して漁獲報告システムの情報収集体制等を整備します。また、水産総合研究センター施設の再編整備や漁業調査船の代船検討を進め、有用水産資源の生息量や生態などの調査の充実を図ります。
- ・クロマグロやサバ等漁獲可能量制度の対象魚種については、国との連携の下、資源を適切に管理します。さらに、漁業者の理解と協力を得た上で、科学的なデータに基づき、対象魚種の追加を検討します。
- ・漁獲可能量制度に併せて、漁業者の産卵期保護など自主的な管理を組み合わせることで、効果的かつ現場に適した資源管理に取り組みます。
- ・特定水産動植物等の国内流通の適正化等に関する法律（水産流通適正化法）の施行を受け、違法な漁獲物の流通を防止するとともに、最新鋭の漁業取締船により、秩序ある漁場利用を確保します。

【銚子・九十九里地域】

新漁業法に基づく漁獲可能量を基本とした資源管理を実施する上で重要な科学的な資源評価を的確に行うため、国と連携して漁獲報告システムの情報収集体制等を整備します。整備する漁獲報告システムについては、正確かつ迅速な漁獲量の報告と漁協の販売事業の合理化に資するシステムの構築をサポートするとともに、イワシやサバ等多獲性魚の多くが、大臣許可漁業である沖合漁業による漁獲であることから、国主導のTAC管理に基づく管理手法を行いつつ、地先の重要水産資源については、地域の実情に合わせた管理手法を検討します。

例えば、キンメダイのように、既に漁業者による自主的管理が高度に進められている魚種は、これまでの資源管理措置による効果を定量化する等これまでの資源管理措置を検証し、これまでの効果を今後の管理措置に反映させることで、より科学的根拠に基づいた資源管理を推進します。

また、チョウセンハマグリについては、共同操業などの操業の効率化を維持する一方、地先に発生した資源を持続的かつ有効に活用するため、これまでの自主的管理の高度化を進めます。

銚子漁港では、特定水産動植物に指定されているナマコ類が水揚げされていることから、市場開設者である漁協と協力し、水産流通適正化法の適切な運用を図るとともに、漁業取締部署と連携することで漁業秩序の維持に努めます。

(2) つくり育てる漁業の推進

【各地域共通】

- ・水産資源の維持・増大を図るため、栽培漁業基本計画に基づき健全な種苗を生産・放流するとともに、種苗生産時の疾病防除や省力化などの技術開発に取り組みます。
- ・放流用種苗の質の向上や生産の安定化に向けた研究の強化と種苗生産の効率化を図るため、種苗生産施設の集約化・機能強化を進めます。
- ・資源管理や種苗放流の効果を高めるため、水産生物の生活史に配慮した魚礁の整備や干潟漁場の生産力を向上させる覆砂等を行います。

【銚子・九十九里地域】

主要な水産資源であるマダイやヒラメについては、漁獲の底支えの機能もあることから、これまで取り組んできた種苗放流を継続的に行いつつ、マダイの中間育成については、地域内で集約化し、つくり育てる漁業の生産性の向上を図ります。

洋上風力発電事業の漁業共生策の1つとして検討している魚礁の設置については、これまでに整備した魚礁の蝸集効果の検証結果を活用し、より効果的な魚礁の設置に向けて、関係者間の意見交換等を促進します。

(3) 漁場環境変化への対応

【各地域共通】

- ・海水温、栄養塩や貧酸素水塊の分布状況などを調査解析し、スマートフォン等を活用して、操業に必要な漁場環境情報を漁業者等に提供します。
- ・全国の閉鎖性海域で、栄養塩類の減少等が海域の基礎的生産力を低下させ、ノリの色落ちや魚介類の減少の要因となっていると示唆されている例があることなどから、国などと連携して、東京湾の漁業者に全国の環境対策等に関する情報を提供します。
- ・漁業者や県で組織する「千葉県磯焼け対策会議」を設置し、効率のかつ効果的な磯焼け（藻場消失）対策を講じるとともに、漁業者が行う植食性魚類やガンガゼなど食害生物の駆除、母藻の設置、モニタリングなどの取組を支援します。

【銚子・九十九里地域】

銚子地区の藻場については良好な状態が維持されていることから、洋上風力発電事業に係る漁場調査等の結果を基に、磯焼けが進む県南部地域の情報を共有し、予防的対策を検討します。

2 水産業の成長産業化

(1) 漁業・養殖業の生産性向上

【各地域共通】

- ・千葉県水産情報通信センターから高精度な漁海況情報を提供するとともに、ICTを活用した漁海況予測システムやデジタル操業日誌を漁業者に導入するなどスマート水産業を推進し、漁業者の効率的な操業を支援します。
- ・地域の漁業所得の向上を目標とした「浜の活力再生プラン」や複数地域の水産業の競争力強化を目標とした「浜の活力再生広域プラン」に位置付けた施設の整備、省エネ漁船の導入等を進めます。
- ・まき網漁業や定置網漁業等の経営安定を図るため、漁業経営改善計画の策定や漁業経営アドバイザーによる経営改善指導などを支援します。また、収益性の高い操業・生産体制への転換を推進します。
- ・アワビ漁業では、漁獲サイズの大型化による収益増と産卵による資源添加効果が見込める4年型輪採漁場の整備を進めます。また、輪採漁場の生産性を高める管理手法の改善指導に取り組みます。

【銚子・九十九里地域】

1 スマート水産業の推進

これまで進めてきた船団のスリム化や省力型の漁船の導入など効率的な生産体制の構築による漁業の収益力の強化に加え、スマート水産業を推進し、更なる操業の効率化を図ることで、漁業所得の向上に資する取組を支援します。

また、操業の効率化を図るため、キンメダイ等小型漁船漁業における漁海況予測システムの活用や板びき網漁業へのデジタル操業日誌等の導入を支援します。

2 浜の活力再生プラン

銚子・九十九里地域では、令和3年度までに銚子市地区の第2期と九十九里地区の第1期浜の活力再生プラン及び銚子・九十九里地区の第2期浜の活力再生広域プランが策定されており、漁業者の所得向上を目指した以下の取組を支援します。

	承認年月	計画概要
銚子市 浜プラン (第2期) H31~R5	H31.3	<ul style="list-style-type: none">・沖合底びき網漁業の操業の効率化及び漁獲物の鮮度保持・海業支援施設を活用した販売促進・協業化の取組によるコスト削減

九十九里 浜プラン (第1期) R3~R7	R4.3	<ul style="list-style-type: none"> ・効率的な操業体制の維持（まき網漁業、貝桁漁業） ・安定的なイワシの生産と品質管理 ・漁協直売所を活用した販売促進 ・担い手の確保・育成
銚子・九十九 里地区 広域浜プラン (第2期) R3~R7	R4.3	<ul style="list-style-type: none"> ・銚子漁港の大水深岸壁の整備、第三市場の建替・改修による拠点化の推進、産地間競争力の強化 ・地域水産物のブランド力の向上や観光事業との連携強化 ・低・未利用魚の付加価値向上 ・担い手の確保・育成

3 水産資源の維持増大に取り組む漁業者グループの活動支援

九十九里の片貝漁港では、養殖場として確保していた漁港内のスペースをチョウセンハマグリ之母貝場として活用する資源の維持増大に向けた取組を、水産総合研究センターと連携し、技術的に支援します。

(2) 流通構造の改革

【各地域共通】

- ・銚子漁港や勝浦漁港などの流通拠点漁港においては、国内外の需要に対応し産地間競争に打ち勝つために、大型漁船に対応した岸壁等の整備、高度衛生管理型の産地市場や製氷貯水施設等の一体的整備により、漁港・流通機能の強化を推進します。
- ・小規模な産地市場においては、価格形成力の強化のため、市場の統廃合など拠点化により水揚物の集約化を進めるとともに、高品質で安全な水産物を供給するため、品質・衛生管理対策の推進など、産地機能の充実・強化を図ります。

【銚子・九十九里地域】

銚子漁港では、閉鎖型の高度衛生管理型の荷さばき施設とした第一卸売市場に加え、第三卸売市場についても、高度衛生管理型の荷さばき施設への建替えやゾーニングによる衛生管理を強化した荷さばき施設への改修、前面岸壁の衛生化及び耐震改修を一体的な整備を進めます。

また、運用面では、HACCPの考え方を取り入れた卸売市場の衛生管理の向上に取り組むとともに、HACCP認定を取得した後の施設の機能的な運用方法の検討を進めます。

大型船に対応した岸壁等の整備を進め、陸揚げの効率化を図り、漁船の大型化が進むまき網漁業に対応することで、産地間競争力の維持・向上を図ります。

飯岡漁港、片貝漁港については、水産物の安定的な生産流通能力及び作業時安全性の向上に資する整備を進めます。

銚子漁港の整備計画

年度	R 4年	R 5年	R 6年	R 7年
荷さばき施設	本体工事	本体工事	供用開始	
大型漁船対応岸壁等	整備工事	整備工事	整備工事	整備工事

(3) マーケットインの発想での水産物の需要拡大

【各地域共通】

- ・水産物の生産から製造・加工、流通、消費に至る関係者の連携により、水産バリューチェーンの強化や新たな構築を推進し、水産物の付加価値化や高品質化を図るなど、消費者ニーズに対応した水産物を提供していきます。
- ・消費者のニーズの多様化や食の簡便化志向、若年層の魚離れに対応したファストフィッシュ商品の開発、エイなどの低利用・未利用資源を活用した加工品開発のほか、従来加工品の改良に対する技術支援を行い、水産物の消費拡大に取り組みます。
- ・新型コロナウイルス感染症の拡大の影響による内食機会の増加やECサイトの利用拡大など「新しい生活様式」に対応するため、漁業協同組合等が取り組む水産物のインターネット販売や高速バスを活用した「貨客混載」による首都圏への鮮魚輸送などの取組を推進します。
- ・千葉の強みがあり、輸出拡大の余地が大きい品目の中から、海外で評価されるよう販売戦略をもって、県産水産物の海外市場への展開を検討するとともに、県産水産物の輸出に意欲ある生産者の取組を支援します。

【銚子・九十九里地域】

1 水産バリューチェーンの強化や新たな構築を推進

生産者自らが行う産直の取組に加え、生産から販売に至るサプライチェーンを活用し、消費者ニーズにマッチした地域水産物の価値を付加し、流通させる水産バリューチェーンについて、様々な形態のバリューチェーンの構築を進めます。関係者間のイメージを共有化し、具体的なバリューチェーンの構築に向けて、漁業者や漁協、仲買人等の関係者による具体的な検討を進めます。



2 ファストフィッシュ商品及び低利用・未利用資源を活用した加工品開発

消費者のニーズの多様化や食の簡便化志向、若年層の魚離れに対応するため、令和2年度から供用を開始した千葉県漁連の水産加工センターを中心に、県漁連と連携し、マーケットインに対応したファストフィッシュ商品や低・未利用魚を活用した新製品開発を進めます。

3 高速バスを活用した「貨客混載」による鮮魚輸送や水産物のインターネット販売

館山地区で開始されている高速バスの「貨客混載」をモデルとし、銚子・九十九里地域からの新たな流通手段あるいは販路開拓として、銚子地区のキンメダイ等の水産物についても同様の手法を用いた横展開の検討を進めます。

4 漁業者が行う輸出の取組への支援

これまで銚子市漁協がタイ王国において、市場調査や現地日本食レストランでの試食会等様々な取組を実施してきましたが、新型コロナウイルスの影響により、小ロットながら続けてきた商流の停滞を余儀なくされていることから、商流の回復の兆しが出てきた後、相手国側の市場回復の状況を見ながら、アフターコロナの状況に応じた輸出の取組について支援します。



3 漁業・漁村の活性化を支える取組

(1) 漁業協同組合の経営基盤強化

【各地域共通】

- ・漁業協同組合は、漁業者の所得向上や適切な資源管理等の実施、販売事業を通じて消費者に水産物を安定供給するなど、漁村の地域経済や社会を支える中核的な組織です。これからもその役割を果たすことができるよう、組合事業及び経営基盤の強化や健全な運営に係る指導や支援を行います。

【銚子・九十九里地域】

- ・漁業者の所得向上や適切な資源管理等の実施、販売事業等漁業生産の中核的な役割を担う漁業協同組合の基盤の強化対策については、市内合併あるいは市町村を越えた広域合併を行ってきた結果、経営体質の改善が進みましたが、組織の人的な強化即ち漁協職員の育成については継続的な課題であることから、県漁連等系統団体と連携して職員研修等の取組を支援します。

(2) 担い手の確保・育成

【各地域共通】

- ・ 漁業就業相談会などの「就業相談」、インターンシップなどの「漁業体験」、実際の操業の中で漁業技術を習得する「漁業研修」、漁業就業後をサポートする「フォローアップ研修」など段階に応じた対策により、新規就業者の確保と育成を推進します。
- ・ 漁業協同組合や市町村と連携し、都市部も含めた地域内外の潜在的な就業希望者を掘り起こすとともに、就業者の定着率を高めるため、海士グループや船団による就業サポートを強化して後継者を育成する「後継者育成実践モデル」を進めます。
- ・ スマート水産業を推進するキーパーソンを育成するとともに、漁業士会の研修活動や地域の中核的漁業者による生産性向上対策などの取組を支援します。

【銚子・九十九里地域】

1 新規就業者の確保と育成を推進

これまで取り組んできたインターンシップなどの「漁業体験」を継続的に行うことにより、漁業を就業の対象として適切に認識してもらい着業の機会を創出するとともに、県内外から広く就業者を確保できるよう、きめ細かな情報発信を支援します。

2 就業モデルづくり

銚子の外川地区では、喫緊の課題である小型漁船の船団の維持を漁家経営者の確保という課題と連動させ、新規就業者を船団で受け入れることで、新規就業希望者と船主の柔軟なマッチングを実現するとともに、漁労技術の習得や地域内の融和をスムーズに進め、銚子市や漁協と連携し着実に就業できる環境を整える取組を支援します。

3 スマート水産業を推進するキーパーソンを育成

地域の漁業者の中核的な存在である漁業士会を中心に、実証化事業等を通じてスマート水産業の普及に不可欠となるキーパーソンの育成を支援します。

(3) 漁港の整備

【各地域共通】

- ・ 銚子漁港や勝浦漁港などの流通拠点漁港においては、国内外の需要に対応し産地間競争に打ち勝つために、大型漁船に対応した岸壁等の整備、高度衛生管理型の産地市場や製氷貯氷施設等の一体的整備により、漁港・流通機能の強化を推進します。(再掲)
- ・ 老朽化した施設が増加しているため、緊急度・重要度に基づき、予防保全の考え方に基づく、持続可能なインフラ管理を行います。

【銚子・九十九里地域】

銚子漁港では、第三卸売市場について高度衛生化の改修を前面岸壁整備と一体的に進めると共に、大型船に対応した岸壁等の整備を進め、陸揚げの効率化を図り、漁船の大型化が進むまき網漁業に対応することで、産地間競争力を維持・向上を図ります。

(4) 多面的機能の発揮の促進

【各地域共通】

- ・四季折々の魅力ある水産物やこれを生かした水産加工製品、地域の文化や芸術、海洋レクリエーションの機会など地域資源に関する情報を発信することにより、漁村に都市住民や県民の来訪を増やし、雇用の創出や漁家所得の向上などを通じた漁村の活性化を図ります。
- ・学校給食関係者と連携し、県産水産物を食材に提供するだけでなく、給食用の献立の開発や、児童・生徒が県産水産物に親しむ機会を設けるなど、魚食普及活動を推進します。
- ・小中学校や栄養士などを育成する高等学校、大学などが行う料理教室などに「おさかな普及員」を派遣し、地元の旬の魚介類を調理し味わってもらう料理教室を開催するなど、地産地消を推進します。
- ・地域の漁業実態に合わせた漁港機能の再編・集約等により空いた漁港の水域等を水産資源の増養殖利用、直販施設及びプレジャーボート等の受入れに活用するなど漁港の有効活用による漁村の活性化を推進します。
- ・藻場・干潟の保全、海難事故防止、ノリスキ体験等、水産多面的機能の発揮に取り組む漁業者グループの活動を支援します。
- ・漁業者の理解の下、漁業と調和のとれた海洋再生可能エネルギー発電施設（洋上風力発電施設）の整備が進むよう、協議会等の場を通じて、関係機関等との連携を図り対応します。

【銚子・九十九里地域】

1 地域資源に関する情報発信と漁村の活性化

水揚量全国一の銚子漁港やかつての漁村風景を残す外川漁港等地域資源を活用し、漁業者や漁協が市町村等と連携して取り組む水産物を活用した地域活性化策を支援します。九十九里のイワシ文化を生かした食育や地域水産加工との連携による地域活性化策を支援します。

オリンピックで正式競技種目となったサーフィンなど、魅力ある地域資源をフルに活用しながら、訪れた観光客には新鮮な地域の水産物を堪能できる機会を提供することで、リピーターの獲得を図ります。

2 魚食普及活動を推進

令和2年度から供用を開始した千葉県漁連の水産加工センターを中心に、県漁連と連携し、学校給食への提供も視野に入れ、ファストフィッシュ商品や低・未利用魚を活用した新製品開発を進めます。

また、銚子市漁協の女性部の活動を中心とした料理教室の開催等食育に関する取組を支援します。



3 漁業と調和のとれた海洋再生可能エネルギー発電施設（洋上風力発電施設）の整備

洋上風力発電事業の漁業への影響調査や造成された基金を活用した漁業共生策について、水産総合研究センターや民間業者、選定事業者等関係機関と協議会等の場を通じて検討を進め、具体的な共生策の立案を支援します。

(5) 災害への対応

【各地域共通】

- ・漁港の機能診断結果に基づき、必要な耐震耐津波・波浪対策を実施し、災害に強い漁港づくりを推進します。
- ・海岸の防災・減災対策については、海岸保全基本計画を基に関係者・関係機関と十分な合意形成を行った上で、防災・減災に資する施策を実施し、漁村集落の安全を確保します。
- ・千葉県水産情報通信センターと千葉県無線漁業協同組合との連携による漁業無線の24時間運用体制により、気象等の操業安全に関する情報を提供するとともに、海難事故発生時には、迅速・的確に対応します。
- ・漁船の操業と航行の安全確保を図るため、船舶自動識別装置（AIS）の搭載が義務化されていない小型漁船を対象に、簡易AISの円滑な導入を支援します。

【銚子・九十九里地域】

銚子漁港については、主要な岸壁の耐震・耐津波化や荷さばき所の耐震性の向上や電源喪失対策を進めるとともに、外川漁港、片貝漁港の防潮堤整備を進めます。

簡易AISの導入に当たっては、操業や航行時の安全確保につながる一方で、操業位置が他船に知られてしまうという課題があることから、簡易AISの導入に向けた研修会の開催等県漁連とも連携を図りながら、定期的に情報発信を努め、普及を推進します。

4 内水面漁業を活用した地域振興

(1) 水産資源の回復と漁業振興

【各地域共通】

- ・内水面の重要な魚種であるウナギについては、新漁業法施行によるシラスウナギの許可漁業制への移行を円滑に進めるとともに、漁業者と協力して密漁防止や流通の秩序維持の強化に取り組みます。
- ・国と連携し、ウナギ資源調査や生態の情報の収集などを実施し、親ウナギの保護等、資源管理を推進します。
- ・有用水産資源の維持・増大対策の基礎資料とするため、県内の主要河川や湖沼における魚介類の生息状況調査を実施します。
- ・水産資源の増殖に向けて漁業協同組合が取り組む種苗放流や産卵床の設置に対して支援します。
- ・地域や漁業協同組合が取り組むコクチバスなど害敵生物の防除活動等を支援するとともに、ドローン等を用いたカワウ被害対策などに取り組みます。
- ・放射性物質に係るモニタリング調査を継続して実施するとともに、安全の確保が確認された水域の出荷制限の解除や操業の再開に向けて、関係機関と協議・調整を進めます。

【銚子・九十九里地域】

シラスウナギは、新漁業法施行により、令和5年度の許可漁業制移行に向け、国の動向を見極めながら法施行に向けた諸課題の整理を進めます。新たに施行される水産流通適正化法については、許可漁業制への移行に合わせて適正な運用方法の検討を進め、生産から流通の一貫した管理体制を検討・構築します。また、漁場の秩序を維持するため、漁協や海上保安部とより一層連携し、シラスウナギの密漁監視の強化を図ります。

さらに、国と連携し、ウナギ資源調査や生態の情報の収集などを実施し、親ウナギの保護等、資源管理を推進します。

漁協が行うシジミの資源調査等を指導することにより、シジミ資源のモニタリングを行います。

国と連携し、放射性物質の影響による出荷制限の解除や操業の再開に向けて検討します。

(2) 遊漁の振興と漁業協同組合経営の安定化

【各地域共通】

- ・ 漁業協同組合や市町村による遊漁情報発信への支援や病気に強く活力の高いアユ種苗の開発などにより、遊漁人口の維持・増大を図り、地域の活性化と漁業協同組合の経営安定化を推進します。

(3) 養殖業の推進

【各地域共通】

- ・ 各地区で取り組まれているホンモロコ養殖の生産量増大を目指し、卵提供や飼育技術指導、販路の拡大を推進します。
- ・ アオノリ養殖については、漁業者が生産量の回復を目指して取り組む環境調査などを支援します。
- ・ 医薬品・医療機器等の品質・有効性及び安全性の確保等に関する法律（薬機法）に基づく水産用医薬品の適正使用の指導及び残留検査の実施により、消費者に安全・安心な養殖魚を提供します。

5 内水面の有する多面的機能の発揮

(1) 漁場環境の維持

【各地域共通】

- ・ 森林や河川の施設整備等に際しては、自然環境との共生・調和に配慮されるよう、関係する管理組織等と連携して対応します。
- ・ 漁業者と地域住民等が連携して行う環境・生態系の保全活動を支援することで、内水面漁業が有する多面的機能の発揮に努めます。

【銚子・九十九里地域】

魚道等河川の施設整備等に際しては、自然環境との共生・調和に配慮されるよう、関係する管理組織等と連携して対応します。

(2) 情報発信と交流の促進

【各地域共通】

- ・内水面が有する自然環境や伝統文化などを積極的に情報発信することで、都市住民との交流活動を促進します。
- ・漁業協同組合が行う種苗放流等水産資源の保護・増殖の取組を、小・中学生の体験学習の場として提供することで、次代を担う子供たちの環境や生態系に対する理解を深めます。

【銚子・九十九里地域】

利根川や栗山川等天然ウナギやフナなど川魚の食文化の継承や地域観光と連携した取組を支援します。

また、漁協が行う種苗放流等水産資源の保護・増殖の取組を、小・中学生の体験学習の場として提供することで、次代を担う子供たちの環境や生態系に対する理解を深めます。



体験学習の様子